

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300377
法人名	社会福祉法人正和会
事業所名	のぞみ・ささえ
所在地	宇和島市保田甲1932番地2（電話）0895-20-3280
自己評価作成日	平成21年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年1月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に出かけていくには不利な立地条件にはあるが、それを良い方に活かすと、空気がよく緑に囲まれた環境にあり、ゆったりとした散歩コースがある。芝生広場では、天気の良い日はみんなで食事をしたり、お茶を飲んだりしている。夏には、地域の人たちも参加して、盛大な納涼祭が開催されている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員全員が研修を受けて、身体拘束はしないケアの実践に向けて取り組まれている。施設長は「リスクを恐れて神経質になり、利用者が閉じこもってしまうようなことのないように」と日常的に職員に話しておられ、利用者が自由に出来るように職員は見守りを重視されている。ご家族にもリスクの説明をして、理解を得ながら取り組まれている。  
事業所では「利用者が自由に外に出られる環境を作りたい」と考えられており、「出たい」と思えるように咲く時期を考えて花を植えたり、中庭にベンチとテーブルを置いてみることも話し合っておられる。毎日散歩や買い物に出かけ、車椅子を利用されている方も、車椅子対応車で、一緒に町まで出かけることが多い。きさいや広場に出かけて食事をすることもある。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 社会福祉法人 正和会

(ユニット名) グループホームのぞみ

記入者(管理者)

氏名 舟田 清子

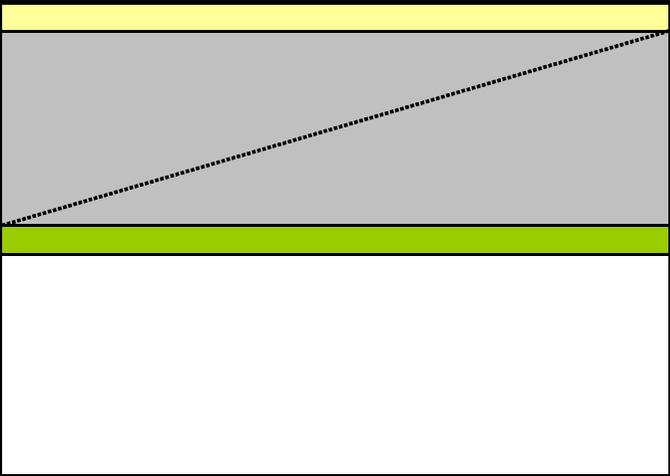
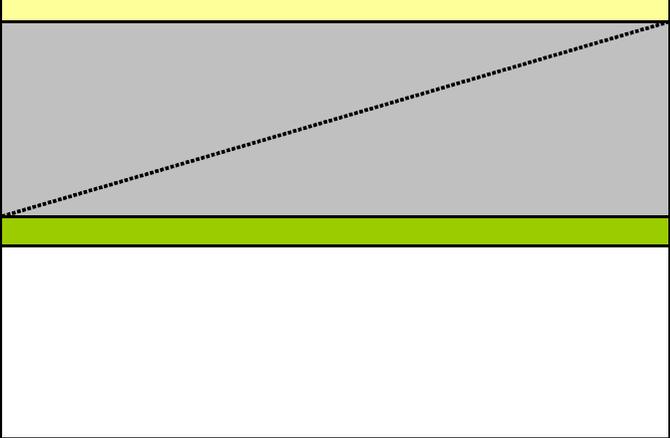
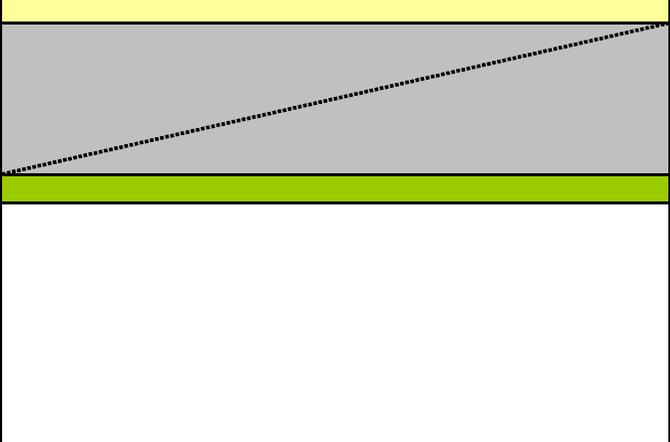
評価完了日

平成21年12月22日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  利用者との関わりを目標としての理念としては掲げている。地域社会の一員としての生活をすることを支援する理念ではない。	
			(外部評価)  「ゆったり・一緒に・楽しく」という理念のもと、利用者の気持ちを第一に考えて支援されている。理念に基づいた目標には小項目があり「ご家族の心の尊重」「地域との連携、協働」と掲げて、利用者を支えていくことを管理者と職員で話し合っておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  ホームの立地条件上、入居者が日常的に出向いていく事は難しいが、地域のスーパーと一緒に買い物に行ったり、魚屋、肉屋、八百屋に来てもらっているので顔なじみになっている。又地域のイベント、お祭り、公民館行事等には声をかけてもらって参加している。	
			(外部評価)  事業所は住宅地から離れた高台にあり、日常的に地域の方が訪れることはむづかしいが、毎日、買い物に出かけたり、地域の祭や文化祭には、全員で出かけるようにされている。又、法人の納涼祭は恒例となっており、地域の方やご家族が大勢来て、利用者と一緒に時間を過ごされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  事業所としては活かせていないが、地域の人たちに個人的に相談される時があり、アドバイスはしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方に参加してもらっているので、地域のイベ ント、行事等の情報が聞けたり、参加したら声かけ等 をもらって、利用者も喜んでいる。又行政 からの意見は、サービスの改善等に多に役立っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自治会長や民生委員の方、市の担当者、他のグルー プホームや今年度からは、ご家族も参加していただき、 2ヶ月に1回、会議を開催されている。ホールから中 庭への出入りの段差や、利用者が日向ぼっこをされる 場所等の安全について、参加者にご意見をいただき、 設備を改善された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>分からないところはTELで聞いたり、相談に行くこと もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、生活保護や成年後見制度等について、市役 所に出向いたり、電話等で教えていただいたり、相談 しながら取組みをすすめておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>法人内外での研修等に参加し、理解でき実践している</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員全員が研修を受けて、身体拘束をしないケアの実 践に向けて取り組まれている。施設長は「リスクを恐 れて神経質になり、利用者が閉じこもってしまうよう なことのないように」と日常的に職員に話しておら れ、利用者が自由に出入られるように職員は見守りを重 視されている。ご家族にもリスクの説明をして、理解 を得ながら取り組まれている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  研修、施設内の勉強会もあり、虐待防止についてはお互いが周知し、徹底している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  包括支援センターの協力もあり、施設内で研修会もある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  重要事項に沿って説明し、家族に納得してもらって契約書で署名、捺印してもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  意見箱を設置するとともに、面会時等に意見を聞いている  (外部評価)  事業所から、ご家族には利用者の状態等の変化時に連絡をされている。ご家族の来訪時に「何かご意見はありませんか」と問いかけておられるが、現在はご意見等は少ないようである。	
				さらに、事業所の理念「ご家族の心を尊重する」にも沿って「ご家族の心」を探るためにも利用者個々の日ごろの様子やご家族が知りたい情報等を伝え、ご家族の希望や要望を引き出していかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎日ミーティングを開いており、いつでも意見を言うことが出来る雰囲気にある。	
			(外部評価)	
			職員は、日々のケアの中の些細なことで管理者に相談されており、又、管理者は、法人に相談して検討されるようになっている。調査訪問時に、法人の部長から「パソコンを使ってホーム便りを作る」ことの提案があり、管理者と話し事業所にパソコンを設置することを決められた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			給与、雇用条件の改善をすることが出来、職員から喜びの声ある。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修等に参加させ、学んだことを法人内の勉強会で報告し、職員全員で学ぶようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的に市のグループホーム連絡協議会が開催されており、参加して、皆でサービスの質の向上に取り組んでいる。又運営推進会議にも出席してもらい、他事業所としての意見をもらっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			相談時に時間をかけて話を聞くようにしている。困っていること、不安等遠慮なく話してもらい、出来るだけ要望を聞き、対応することで、本人との会話がスムーズに行くようにしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にホームの見学や、家族との話し合いの機会を設け、不安の解消に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人家族の希望を聞き、必要であれば母体の老健、医療機関との連携をとっている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の生きてきたこと、苦労話を聞いていると得ることは多い。又会話の中で、人生の先輩としての「知恵」を学ぶ時が度々ある。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時、TELでの相談時、通院の報告、日常生活の報告をしている。良いことは少しの変化でも知らせ喜んでもらうよう心がけている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医は出来るだけ変えないようにしている。又通院時は、入居前に通っていた、なじみの場所を通るようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>以前からのかかりつけ医の通院時に、いつも通っていた道を行かれたり、病院で懐かしい人達に会えることを喜ばれ「長生きしなければ」と言われる方もある。通院の際、ご自宅近くを通ったり、ご自宅へ必要なものを取りに寄ることもある。ご家族とお墓参りをされる方もある。</p>	<p>「利用者が主役」の支援を行うためにも、個々のこれまでの生活や人との関わり、懐かしい場所や行ってみたい場所等を探り、ご家族の協力も得ながら、事業所でも支援していけるような取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う利用者同士が過ごせるよう配慮しているが、出来るだけ皆と仲良くなってもらうように雰囲気づくりも欠かさないようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者が新任のせい、現在はないが、以前は退去しても状態を知らせてくれる人もいたようである。ホームの催しにも参加されていたようである。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を聞いても実際には困難なこともあるが、聞いた上で出来ることを対応している。 (外部評価) センター方式の様式に、入居時の情報や公文学習療法で聞き取ったり、日々の関わりの中で得た情報を記入し、利用者の意向の把握に努めておられる。アセスメントは、介護計画の見直し時期に更新されている。生まれ故郷のお話をされると穏やかに思い出を語ってくださる方や、ご本人から買物等の希望を申し出る方もある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面接時家族、本人さんより聞き取りする。入居してからのコミュニケーションのため必要なことと思っているので、出来るだけ多くの情報を収集するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りにより、職員全体で把握するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時家族の希望を聞いたり、遠方の家族にはTELにて確認している。 困難事例はそれぞれのユニットで会議を開催して相談し、計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族が面会に来られた時や、電話で「計画の書き直しの時期が来たのですが、何かご意見はありませんか」とお聞きして、担当者が計画を立案して管理者が作成されている。又、新たな課題や状態に変化があった場合は、ユニット職員で話し合い、計画を作成されている。毎月レーダーグラフで計画をモニタリングされて、見直し時の参考にされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>支援経過に毎日記録して、ケアプランの作成に活かしている</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期は6ヶ月に一度であるが、状況に応じてケアプランの見直しをしている</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者は納涼祭、秋祭り等地域の人たちとのふれあいを楽しみにしている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			入所時家族、本人の意見を聞き、出来るだけなじみの 多い、かかりつけ医を受診している。	
			(外部評価)	
			入居時に、できるだけこれまでのかかりつけ医を続け られるよう、利用者やご家族と話し合っておられる。 ご家族が受診に付き添えない場合は職員が同行されたり、 通院先でご家族にバトンタッチして薬をもらって から送って来てもらうようにされている。個別に受診 時の記録をされ、変化があった時のみご家族に報告を されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			毎日の個々の状態把握をし、異常時等は職場の看護 師、老健の看護師、訪問看護等に相談し、協力をして もらっている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			医療機関とは、日常的に連携をとっており、協力して もらっている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族に説明をするが、老健と併設しているため「そう なった時は、老健に入所させてほしい」との希望あ り。	
			(外部評価)	
			入居時看取りについて説明をされているが、重度化し た場合には併設の老人保健施設へ入所させてほしいと 希望されるご家族が多い。法人でも看取りの介護は職 員に負担がかかるのではないかと考えられているが、 職員は「看取りの場所にホームを選んでいただけるな ら、全員で協力して頑張りたい」と話しておられた。	利用者個々が人生の最期をどうしたいのかというこ の把握に努め「ご本人が主役」の支援に取り組んでい かれてほしい。法人での勉強会等、重度化時や看取り 支援に向けて職員が勉強するような機会も作り、利用 者、ご家族の希望も踏まえて、支援していけるような 体制作りをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  法人内での研修に参加したり、各自が消防署で行なわれる講習を受けるように心がけている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  法人内で行なわれる防災訓練時、グループホーム独自のマニュアルを作り施行している。反省会も開催し、それを運営推進会議で、地域、行政の参加者と検討し意見をもらっている。  (外部評価)  年2回、法人全体で避難訓練が行われている。夜間想定 の避難訓練を行い、課題が上がったことを解決する方 策を検討し、緊急時に備えておられる。ホールから中 庭への出入り口の木製スロープが緊急時の車椅子移動 には不安定という意見があり、スロープをセメントで 整備され、手すりも付けられた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  排泄ケア、入浴介助等特に気をつけている。 トイレ誘導等、さりげなく声かけをする。  (外部評価)  入居時に個人情報の使用について説明し、承諾を得て おられる。落ち着かない行動をされる利用者に、職員 はしばらく見守った後で「ここに居られたんですか、 心配していたけど良かった」と声をかけられ、表情が 柔らかくなり落ち着かれていく様子がかがえた。ト イレで排泄時、失敗された方には、職員が小声で連携 をして、ケアと着替えにあたっておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  入浴は本人の好きな時間を選び、買い物、病院に行きたいときは同行している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	自由に過ごしてもらっている。 天気が良い日は入居者からの希望が出てドライブに行く時もある。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	本人が着ている洋服をほめてあげたり、時々はお化粧品をしてもらう時がある。 理、美容院の介助もしている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	出来る人は調理の下ごしらえ、味付けをしてもらっている。 食事中には、「みんなで作った」ことを話すと美味しいといわれる。
			(外部評価)	
				利用者がお寿司のごぼうを削ったり、出来上がったお寿司をとり分けたりされていた。利用者に味付けをお願いしたり「量が多すぎる」と言われる方には、配膳後にご本人に聞きながら調節されていた。量が多いと言われる方は、主食の量は減らし、汁物がお好きな方なのでお汁にうどんを入れておられた。お隣の席の方がおひたしを刻んであるのを見て、ご自分も「刻んでほしい」と申し出る方もあった。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	食事量、水分量、を記録して入居者の体調管理をしている。また、月に一回は老健より管理栄養士も来て一緒に食事をして、アドバイスをもらう。
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	出来る部分は本人にしてもらい、残っているところを職員が介助している。 入れ歯は夜間洗浄剤につけている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			失敗をなくする為、チェック表によりパターンをつかみ、プライバシーに配慮しながら、気持ちよくトイレで排泄できるように心がけている。	
			(外部評価)	
			排泄チェック表にて、個別の排泄パターンを把握し、きめ細かくトイレ誘導することで、失敗が少なくなっているようだ。以前は、失禁用品をホームで使うことはいけないという観念で支援してきたが、失敗した利用者が「どうしてこんな馬鹿になってしもたんやる」と嘆かれるのを見て、適切なパッドや紙パンツを必要な時間帯に使用することで失敗が減り、安心して過ごせるようになってきたようである。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			スムーズに排泄出来るように水分補給、食べ物等に注意している。排便の確認をして、早期に便秘に気付くようにしている	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			基本的には入浴は毎日、好きな時に入浴できるように準備している。	
			(外部評価)	
			毎日好きな時間に入浴ができるように午前中から湯張りがされており、浴室が暖まっていた。入浴を拒否される利用者にはそれぞれの誘い方があり、痒みのある方には「痒みが治まるから」とか、お風呂という言葉に拒否反応がある方には「着替えをしましょうか」と誘う等、無理強いせずに支援できるよう工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			好きな時間に、自由に休んでもらっている。眠れないときはお茶を飲んでリラックスしてもらえるように支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情により把握して、個々にあった服薬の支援をしている。少しの変化も話し合い、必要時は主治医に相談するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理を手伝ってもらったり、一緒にメニューを考えてもらっている。夕食の楽しみにお酒を楽しんでいる人もある。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 安全に散歩できる環境にあり、戸外に自由に出かけている。希望があれば、必要なものを自宅まで取りに行っている。月命日には、家族の援助で墓参される。	
			(外部評価) 事業所では「利用者が自由に外に出られる環境を作りたい」と考えられており、「出たい」と思えるように咲く時期を考えて花を植えたり、中庭にベンチとテーブルを置いてみることも話し合っておられる。毎日散歩や買い物に出かけ、車椅子を利用されている方も、車椅子対応車で、一緒に町まで出かけられることが多い。きさいや広場に出かけて食事をすることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望があれば家族と相談して小遣いを持ってもらっている。買い物に行った時は、そのお金で好きなものを買ってもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙をだしたいといわれ、あて先は職員が書いている。贈り物が届くと嬉しそうに電話でお話されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の場所は、利用書の意見を尊重し、照明、温度設定をしている。 散歩の途中に野花を摘んで飾ることもある。	
			(外部評価) 以前は、事業所全体に気になる匂いがあったが、職員全員で原因を探り「犬を外に出すこと・細やかな排泄介助・丁寧な清掃・口腔ケアの徹底」等が続けられて改善されてきたところである。ホールには天窓があり、ブラインドで光が調節できるようになっている。二つのユニットは別棟になっており、一旦外に出ようになっている、行き来している利用者もあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはテーブル、ソファ等を置き、思い思いに安らげるようにしている	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時には、出来るだけ本人さんのなじみの品物を持ってきてもらうようにしている。 (仏壇、布団、タンス、茶碗、湯のみ、等)	
			(外部評価) 居室が分からなくなる利用者の室札の上部には、色違いの帽子の飾りが付けてあり、目印となっている。各居室には洗面台があり、食後等に歯磨き等されている。居室には畳とフロアの2種類あり、ベッド・テレビ・タンス・仏壇等を持ち込まれていた。入居されてから落ち着かない利用者の部屋に、ホームに迷ってきた猫がくるようになって落ち着かれた方があり、ベッドに寝そべっている猫を笑顔で見えられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室は分かりやすいように工夫している。 夜間はトイレの場所が分かるように明かりをつけている。 居室が分かりやすいように飾りをつけている。	